

「救しⅢ」

～裸の私たちが預かったもの You have? 賢く生きよ!!～

ルカの福音書 16: 1～13

神様は私たちの人生の中であなたに任せたものがあります。不正な管理人も神様が任せた仕事です。「主人」はイエス様が話した例えですがイエス様自身のことをアピールしている文章でもあります。イエス様はなぜ、こんな例えをもって、ばれた時にこの管理人が借金をした人々を呼んで来て、こんな方法をとったことをイエス様が褒めたのでしょうか。

この不正な管理人は、主人にお金を無駄遣いしたことがばれたので、考えて主人にも損をさせず、主人から借りている借金を半分にやって自分を雇ってくれるところを探そうという悪賢い行為をイエスキリストは、「この世の子らは、自分たちの世のことについては、光の子よりも抜けめがないものなので、主人は、不正な管理人がこうも抜けめなくやったのをほめた。」のです。神の子はクリスチャン。この世の子は信じない人たちで、不正な行動をほめたのではなくここまで自分の人生に対して巧妙に知恵深く生きてその姿をほめたのです。それなのに弟子たちには「お前たちはどうなんだ？」と問うたのです。

■ 賢さとは自らが裸であったことを知ること

賢さが私たちに示すもの、知恵が私たちに示すものはいったい何でしょうか。賢い人は分かっています、自分が何も持っていないことを。すべて神様が持っているものなのに、私たちは勘違いして自分の人生で得たものだと思っています。賢さとは自らが裸であったことを知ることです。クリスチャンはこんなにも神様に祝福されていても未だに「無い無い」と言って生きています。それは、自分のものだと思っているか、神様のものだと思っているかの違いなのです。「無い」とわかるのです。「持つ」ということは怖いことです。一度持つと守ろうとします。あなたのものではないので守らないようにしてください。

■ 救し

救さないということは、あなた自身を守るためにあるのです。ですから、その行為は失敗します。主人が帰って来て管理人の不正を見つけたのです。無駄遣いをしていることを見つけたのです。誰のことですか。あなたのことです。この話は弟子たちに言ったのですから。主人が帰って来てあなたに言ったのです。「無駄遣いしている」と。この世の人たちはそういうことがばれると、何とかして真剣に取り戻そうと自分の立場を得ようと努力します。ところが、神の子はそういうことはしない。と言っているのです。私たちが神様に任された人生です。世の中の人よりもあなたはよく、どのように任されたか知っているはず。イエスキリストが自ら十字架に架かって死んで、私があるあなたの罪を背負うから、あなたは私の代わりに幸せに生きて、私の人生で私がしたいと願った人々を救うために生きてほしいと言われたのです。あなたが今、任されていることは神様から与えられた大切な役割だということを知っていますか。それを知っていて、「あなたはそれを無駄に使っていませんか。」と、問われているのです。あなたは、「報告を出せ。」と、言われています。あなたはそこで、なんと報告しますか。そこで、この世の人にはばれてしまったと分かったから良かったのです。ところがクリスチャンは何とかが守られて危機感がありません。だから神様は「あなたが与えられているものに目を向けなさい。」「小さなことに忠実でありなさい」と、言われたのです。聖書の中で「小さいこと」とは何でしょうか。「小さいこと」とは、神を愛し、自らを愛するように隣人を愛することです。それはどういうことかという「その人を救す」ということです。

■ 神の子＝クリスチャンは

クリスチャンのみなさんは知っているのです。知っているのにやらないのは罪です。この世の人たちは自分の人生を得るために抜けめなく真剣にやるのです。ところがクリスチャンになると、神様が与えてくれると思うようになるので力が 60%ぐらいになるのです。何に 60%になるかという、あなたがしなければならぬことをしないうようになるのです。これが教会の衰退だと思えます。今日もう一度、あなたがしなければならぬことを、本当にやっているか思い返してもらいたいです。私たちは本当に大事なものは何なのかを知恵をもって見なければなりません。私たちはあまりにも愚かで、目先のものだけに反応して、間違った判断を犯すのです。神のみ使いたちの愚かさまでにも、私たちは到達することがないのです。そのような私たちができることは、その人を愛して、信頼して従うことなのです。その人が何をせよと言っているかという「救せ」と言ったのです。あなたの祝福のためにです。だから、救さなければいけないのです。なぜかというあなたが救されたからです。「愛する」ということは救すことです。」

不正な管理人は自分の人生の不祥事がばれた時、真剣に残された期間を考えたのです。このやったことを褒めたのではなくて、考えたことを褒めたのです。ばれた時に何とかして生きていく方法を考えたのです。みなさんは問題が起きた時、ダメだとなっていないませんか。本当に何とかし

てあなたはそこで神様に求めて、何とかしようと努力しているのでしょうか。あなたの中に問題が起きた時、あなたの中に赦していない人がいないか探ってください。そして、そうでないのなら、妨害なら戦えば良いのです。そして、妨害でないのなら、感謝すれば良いです。

■ ① 自分のものか？

あなたのものはなにもありません。あなたがあなたのものを自分のものと思っているのです。取られたかと思っただけです。私たちは主人から預かっているものを管理しているだけなので感謝されるのはあなたではありません神様です。

■ ② あなたは預った

自分のものだと思うならあなたはそれを失います。しかし、預かったのならそれはちゃんとするはず。あなたが今、任されている経済、家族、仕事を神様から預かったと思ってください。

■ ③ 使い方を換えようあなたは預った

この主人が帰って来てばれた管理人は使い方を変えたのです。このまゝいくと自分の人生が終わると思いました。だから、この世の方法で、悪賢い方法を選んでやったのです。

■ 神様の友達に

あなたが救われて天国に帰るまでの期間、あなたはその人生をどう使うのですか。この世の人たちは何とかちょっとでも良くしようとしますが、私たちは神様が良くしてくれるのを知っているで、まあ、そこそこで、準備して後は神様どうぞ。と思っただけです。神様はあなたを育て、あなたを祝福したいわけ。あなたがどのように生きるかを見ています。小さいことに忠実であれば、神様はあなたに任せます。自分の方法でやっているあなたを見て神様は訓練します。あなたを何とかしてキリストの香りを放つ存在にしたいのです。あなたが任せられたものを本当にあなたは大切にその花が咲くように平和と喜びをもって育てていますか。そうでないと、それは壊れてしまします。にもかかわらず、あなたはそれを守るために憎むのです。使い方を変えなければなりません。あなたのものではないのです。あなたの人生ではないのです。だから、神様の思いを知らなければそれはできないのです。あなたが今いる場所で神様が願っていることはなにでしょうか。なぜ、その場にいるのでしょうか。あなたが選んで努力して得たのです。クリスチャンは失敗しますが、あなたがなぜそこにいるか思い起こせば変えられるのです。そうすると、あなたはそこで備えられて神様がもっとあなたにさせようとするところに遣わされていくのです。「小さい事に忠実な人は大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。ですから、あなたがたが不正の富にも忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。」クリスチャンはこの世の中で生きるしかないので、世の中の汚いお金を持って生活するのです。ならば、その不正の罪によってまみれたお金を用いて友を作れと言われました。この友という言葉に対して、神様を指すという人に対し、この世の中の友を指すという人もいて神学的に非常にもめています。だから、私はそのすべてであるべきだと思います。私たちが持っているものが、この社会の中で、汚いもの、自分のものに使っている場合は神様は友とは呼ばれません。あなたはどのように使いますか。あなたが任されたものを神様は見、あなたの友達だと言うでしょうか。するとその富が無くなったとき、「まことの富を任せるでしょう」「また、あなたがたが他人のものに忠実でなかったら、だれがあなたがたに、あなたがたのものを持たせるでしょう。」「しもべは二人の主人に従うことはできません。一方を憎んで他方を愛したり、または一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなた方は神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」このように書いてあります。神様はあなたの人生にかかわって、ふたりの主人につかることはできないと伝えています。あなたが自分のものにした時点でそれが主人です。あなたはその主人によってコントロールされるようになります。神様の前では是非、今日、自分は裸であったということを知恵によって知っていたべきなのです。そして、その上で、あなたが任されたものを用いて、この世で神様の友達になってください。神様が友という人は私が牢屋にいるときに、あなたは私のところに来てくれて、そして、私に水をくれた。それが、友だと言ったのです。イエス様の友とよばれる人は、イエス様が愛した人を愛することです。その人に対して必要なことをするという事です。だから、私たちは、あなたに出会う人と、あなたがどう向き合っているかを今日祈りの中で感じていただきたいと思います。

(要約者:澤口 建樹)

(2019年3月31日)